

第1711号
2024年
7月1日
定価1部500円
定期購読
半年 3000円
1年 6000円
振替番号
00140-5-95121

労働新聞

http://japanlabor.party/ shinbun@japanlabor.party

日本労働党中央委員会機関紙

発行所 労働新聞社 本社 〒102-0072
東京都千代田区飯田橋4-1-5 ポザール飯田橋2階
編集発行人 高橋信 電話 03-3265-6506 / FAX 03-3265-6507

北海道支社
〒001-0033
札幌市北区北33条
西6-1-10-206
電話 011-558-4441

関西支社
〒532-0011
大阪市淀川区西中島5-8
-29チサン第3新大阪501
電話 06-6586-9920

九州支社
〒812-0042
福岡市博多区豊1-3-8-302
電話 092-483-1344



日中戦争の回避訴え緊急集会

国交正常化の原点に戻ろう

「日中戦争回避、国交正常化の原点に戻ろう」緊急集会が6月17日、東京・星陵会館において開催され、国会議員を含む各界の人びとが集まった。主催は「一つの中国」原則の堅持を求める緊急集会実行委員会。司会は松尾ゆり・杉並区議会議員が務めた。(4〜7面に特集)

冒頭のあいさつに立った鳩山由紀夫・元首相は、中国の内政問題である台湾問題で「独立」をそのかす日米の危険な動きに異をとなえ、頼清徳・台湾「総統」の就任式での発言に対する捉え方が日中間で違うことに触れた。日中戦争にならないためには、日中国交正常化の原点に立ち返るべきだと明解に述べた。

問題提起として基調講演を行った孫崎亨・東アジア共同体研究所長(元外務省情報局長)は、中国との間で日本の国益をどう調整するか、冷静で論理的な思考があまりにも欠けてしまっているという指摘。日中戦争の歴史を踏まえた1972年の日中共同声明、そこで確認した「一つの中国」原則という約束が極めて重要なものであることを述べた。そして世界の構造、日中間の関係が大きく変わったもので、「自分たちの国益を

考え、どうしたら平和的にものが解決できるか、先人の知恵をしっかりと守って、将来の発展の土台にしていかなければならぬ」と熱く語った。

孫崎氏の問題提起を受けて6人の国会議員が登壇し、政府との論戦の経過も踏まえて発言された。伊波洋一・参議院議員(「沖繩の風」)は「沖繩だけでなく、弾薬庫、ミサイル配備など全国で戦争準備が進んでいる。対中国貿易は対米よりはるかに大きく岸田路線は決して日本の利益にならない」、杉尾秀哉・参議院議員(立憲民主党)は「安保法制制定時から台湾有事が想定されていた。国会議員の訪中団を早期に出して日中関係のパイプを太くしたい」、原口一博・衆議院議員(立憲民主党)は「衰退する米国に付き従う必要はない。独立自尊、平和・善隣友好でアジアの繁栄を取り入れる日本にすべき」、川内博史・衆議院議員(立憲民主党)は「戦争の危機、物価高で国民生活のは困窮し混迷する状況。鹿児島でも戦争準備の力ネが落ちている。新しい戦前という状況を変えなければならぬ」、大椿ゆうこ・参議院議員(社会民主党)は「1月に社民党の訪中団を出した。中国側は台湾有事を叫ぶ政治家、岸田政権に大きな懸念を抱いている。世界の中で日本が取り残されていることを政府は自覚しているのか」、高良鉄美・参議院議員(「沖繩の風」)は「沖繩社会大衆党」は、「沖繩の県民所得は復帰後ずっと最下位。南の玄関口にミサイル配備の要塞はいらない。グローバルサウスを見て外交をやるべきだ」などと発言した。また、山崎誠・衆議院議員(立憲民主党)、森山浩行・衆議院議員(立憲民主党)も会場に駆け付けた。

一方で、各界から羽場久美子・青山学院大学名誉教授、安河内賢弘・ものづくり産業労働組合JAM会長、野平晋作・ピースポータル共同代表、棚田一論・日本青年団協議会事務局長の4氏が発言した。羽場氏は「東アジアで戦争が起これば強大なものになる。東アジアの戦争を止めるためには国連や日中韓、欧州が協力し結束していくべきだ」と問題提起。安河内氏は「労働組合がかつて戦争に協力したという反省の上で平和運動をやってきた」として、日中の経済関係は労働者の生活を守るために重要、労働組合としての日中交流をし相互理解を積極

的に進めていきたい」と発言。野平氏は、世界各地での国際交流の経験が踏まえて、国際関係のリアルな問題や日本の閉鎖性について述べた。棚田氏は中国に対する加害責任の反省に立つて日中青年交流を重視してきたことを紹介し、「外交に携わる政治家の役割が重要だ、青年の学びの場としてもこのような取り組みに協力していきたい」と発言した。

会場からは、日本労働党の大嶋和広・党中央委員が発言、続いてイスラエルのガザ攻撃・虐殺に抗議して立ち上がった「パレスチナキャンプ」に集う大学生2人が登壇し、支援・連帯を訴えた。

最後に本集会アピールが読み上げられ、参加者一同で確認した。

今回の集会は、岸田政権が日米軍事一体化と戦争準備を具体的に進め、台湾「独立」を画策する政治家の動きが強まるなかで、国会議員を含む各界の人びとが、日中戦争回避のため日中国交正常化の原点に戻ることに一点で集い、発言した画期的な集会となった。日中間の経済、文化を含む各界の民間交流、政治・政党交流を再開、発展させることも強調された。

孫崎氏が喝破したように、世界のすう勢と現実には、岸田政権がいかに時代錯誤なのかを浮き彫りにしている。今回の集会を出発点に、沖繩県民はじめ岸田政権に抗して闘っている人びと、青年学生をはじめ労働運動、知識人など各層の人びと、そして議会内でも闘うに強まることを求められている。(N)

【紙面紹介】

社説：「一つの中国」の原則堅持し	
アジアの平和を	(2)
世界・日本のできごと	(3)
特集：緊急集会での講演・発言	
鳩山由紀夫氏、孫崎亨氏	(4)
国会議員の発言	(5)
各界からの発言	(6)
会場発言、アピール等	(7)
休憩室	(8)
通信：能登半島地震から半年	(9)
通信：24春闘後の職場	(10)
党生活	(11)
ひと：黒部睦さん	(12)